（令和６年６月２７日）　　**金属課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る）
点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

令和５年１１月末	令和６年２月末	令和６年５月見通し	令和６年８月見通し
－４０千トン ［２０１１千トン］ （９８．0%）	＋１４千トン ［２０４９千トン］ （１０１．９%）	＋１３千トン ［２０６２千トン］ （１００．６%）	―３５千トン ［２０２７千トン］ （９８．２%）
２０２９千トン (100.9)	２０２５千トン (98.8)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和５年１２月末	令和６年３月末	令和６年６月見通し	令和６年９月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,100円。前期比-700円。多少なり荷は動いたようたが、秋需の盛り上がりは全くなく例年にない低調さであった。少ない需要の中、在庫は多くないが、過剰ぎみに感じられている。中小建築案件は相変わらず少なく大型物件は資材高騰や人手不足により延期や中止も出ていた。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は139,100円。前期比±0 円。市場の様子はあまり変わらない。建築物件はある程度出てくると思われたが、年度末を迎えても人手不足や資材高騰により中小建築案件は引き続き低調。メーカー値上げが表明されたが、年度末における駆け込み需要もなかった。市況は横ばいのままであった。	建築需要は前年よりも若干減の水準で低調に推移。資材高騰や人手不足の影響で中小物件は手控えられた。大型案件も出件の端境期となっており需要の盛り上がりも感じられない。今後も需要が少ない中で、流通は需給環境に関係なく、仕入上昇分は勿論のこと諸経費を含めた価格転嫁を進めていかなければならないが、現状、価格転嫁は道半ばである。	需要環境についても、今後盛り上がるような雰囲気は全くなく、さらに夏場の猛暑や夏季休暇などの要素も重なることから需要環境の好転は見込みにくい。秋口に差し掛かるころに多少改善する見方もあるが望みは薄い。流通の価格転嫁は道半ばだが、高値玉の入荷により収益圧迫を警戒し、需要が低調な中でも、流通は粘り強く価格転嫁に努める方針で市況は強含みで推移していくだろう。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

５月の仕入量は148,551 トン前月比-8.4%、前年同月比-6.6%、販売量は150,664 トン前月比-5.1%、前年同月比-2.6%。前月比において仕入量、販売量はともに減少、前年同月比において仕入量、販売量とも減少となりました。在庫量は233,747 トン前月比-0.9%、前年同月比+5.0%、在庫量は前月比微減、前年同月比増加しました。在庫率は155.1 ポイントと上昇しました。
５月の販売量はGW明けも回復せず落ち込んだままの状態となり、後半若干回復しましたが、トータルすると前年割れの販売量となりました。価格転嫁はなかなか進まず道半ばの状態です。

４．大阪

４月～６月の需要動向は、H形鋼・一般形鋼とも仮需から４月出荷はまずまず良好であったが、５月、６月と月を追うごとに出荷は落ち込んできた。鉄骨需要の落ち込みと「２０２４年問題」建設業の労働時間の規制も影響しているのか？
新車販売台数（軽自動車も含む）は、相次ぐ認証不正問題による出荷減少が１月以降の統計データに表れ始めている。生産が回復しかかっていた中での問題拡大には、落胆の声が散見される。
７月～９月の需要については、前半は厳しい状況が続きそう。８月盆明け以降に鉄骨需要が若干出てくるとの声も聞こえるので、需要の回復に期待したい。全般的に人手不足、２０２４年問題で建設業の労働時間規制など需要以外の問題も大きく、需要があっても工事の遅れ、ゼネコンは選別受注とバランスが崩れている感じ。スムーズに仕事が流れるには時間がかかる見込み。